

学校関係者評価報告書

評価実施日	令和7年2月19日（水）
委員	教育関係者
	福祉関係者
	就労関係者
	地域有識者
	医療関係者

評 価 ・ 提 言 等	提言等に対する改善方策等
<p>1 今年度の最終評価について</p> <p>(1) 学習指導・言語指導 全体的に児童生徒の授業評価が高く、ICTを活用する環境が整っていることが分かる。読書については、電子書籍への移行が進むと思うが、紙文化の重要性や、読書以外の多様な活動も自己評価に取り入れてもらいたい。</p> <p>(2) 特別支援教育体制 魅力的な交流活動や校外の大会出場等を企画されて、概ね評価が高いことがアンケートから読み取れる。引き続き指導を継続してもらいたい。また、障がい児が地域の学校へ通う流れもあるが、学校の魅力を高め、聴覚障がい児教育のセンター的機能を果たしてもらいたい。</p> <p>(3) キャリア教育 いろいろな職業体験を児童生徒にさせ、職場に適応しやすくするとともに、企業の方との関係も密接に築いてもらいたい。また、障がいの程度に合わせた進学や就労の実現とそのアフターケアについても進路先との連携を密にしてもらいたい。</p> <p>(4) 生徒指導 人権・同和教育において、児童・生徒の変化に敏感に対応できている体制を継続してもらいたい。 今後、児童生徒が実社会で自立し、しっかり生活できるよう指導をお願いしたい。</p> <p>2 学校運営への提言 情報発信をより積極的にしていただきたい。 学校周辺の安全性を高めることとして、道路の整備や視認性を高める工夫など、地域から行政に要望していきたいとも考えている。気軽に委員に連絡していただき、外部の力も借りながら学校全体を支援していきたい。</p>	<p>・あらゆる学習活動において個別の指導に十分な時間をとり、個別最適な学習を実践するように努めていきたい。 ・朝の会やSHRなどで読書の重要性を説明し時間を確保して読書の習慣を身に付けさせるようにしたい。</p> <p>・県内の関係機関と連携を深め、聴覚障がい児教育に関するセンター的役割担い、本校の存在意義を再認識し、専門性と人間力を一層高めていきたい。</p> <p>・今まで行ってこなかった児童生徒へ就労に向けた体験のプログラムを企業とともに考え実践していく。 ・長期的なアフターケアを可能な限り実践していきたい。</p> <p>・様々な角度から児童生徒にアプローチして児童生徒の状態を迅速に把握してしていきたい。 ・セルフアドボカシー、ウェフビーングの考え方等を意識した教育活動を学校生活全体で実践していきたい。</p> <p>・本校で開催する行事の紹介や参加を多方面に積極的に情報発信するため、学校のマスコットキャラクター制作を計画している。 ・委員との連携を深め、外部の協力と連携を活用して改善していく。</p>